

歴史的なまちなみ勉強会の概要

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時 : 平成25年3月16日(土) 午後7時~8時30分 ・場 所 : 堺市立町家歴史館 山口家住宅 ・参加者 : 住民35人
市からの報告	<p>1. 環濠都市の歴史について(文化財課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住吉祭礼図屏風、堺大絵図を用いた、歴史やまちの成り立ち等について ・大正時代に撮影された写真に写っているまちなみと現在の比較 ・昭和54年に発行された「堺旧市雑史録」を用いた、紀州街道沿道の状況について <p>2. 町家やまちなみの現状について(都市景観室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環濠都市の北部及び北東部における町家の現存状況について ・地域における、現存する町家や町家風新築等の紹介 ・北半町、北旅籠町、桜之町、柳之町等の現状のまちなみについて
意見交換における主な意見	<p>■町家、まちなみについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなみを残すには、個人任せでは難しい。何か対策が必要。 ・古い町家に住んでいる人は敷地もけっこう広く、相続税も重みになる。 ・町家を持っている人が売ってしまえば、不動産屋が入ってきて、まちなみどころではなくなる。 ・第三者がその土地を買ったら、まちなみなんか関係なく、マンションを建てるかもしれない。 ・心配しているのは、大きな地震が来たときに、家がつぶれること。 ・大阪市では町家改修に補助が出るので、それについても考えて欲しい。 ・この地域に住んでいることが誇りと思うことができ、それが継続していける形、制度が出来上がれば良い。 <p>■観光関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は絶対に必要。 ・まちなみについてPRや七道駅への案内所の設置などが必要。 ・一般の人が、行ってみたいと思うようなイベントもやって欲しい。 ・お寺はどこも見学できない。年中開放して、自由に入れるようにすべき。 ・駅周辺のお店屋さんが載っているマップが駅に置いてあれば良い。 ・地域で私達が道案内になっているということを知っていただきたい。

<p>第2回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時 : 平成25年6月22日(土) 午後6時～8時 ・場 所 : 堺伝統産業会館2階 研修室 ・参加者 : 住民19人
<p>市からの報告</p>	<p>1. 他都市における歴史的なまちなみの取組み事例について(都市景観室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橿原市今井町、伊勢市内宮おはらい町、大阪市平野郷、伊丹市酒蔵通りの4つの地域を紹介 ・各都市で行われている助成制度等に加え、規制誘導手法について紹介 (今井町:伝統的建造物群保存地区、内宮おはらい町:景観地区と高度地区、平野郷:地区計画、伊丹酒蔵通り:景観条例)
<p>意見交換における主な意見</p>	<p>■まちなみ再生について(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や伝統的な価値は別として、堺市の都市機能の問題や高齢化や少子化、空洞化、経済面、政令指定都市にふさわしい市街地になっているのかなどを含めて、まちなみの保全に関する動機付けが必要。 ・具体的にどの辺をどういう風にしていくのか、堺市がある程度のことを道しるべとして示すべき。 ・外の人から町家の良さを評価してもらうことが大事。役所が広報して欲しい。 ・道路については、役所がリードできるところではないか。 <p>■協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう目のあたりに古い建物が潰されていっている。本当に早くしないとイケない。時間的な問題をすごく感じる。協議会があったほうが良いという話があったが、とりあえず早く進めていかなければいけない。 ・早く協議会を作りましょう。 ・何年以内という目標を決めて、逆算でいつまでに協議会作るというようにしていかなければなかなか進まない。 <p>■空き家対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策が必要。空き家の長屋が潰れると、まちなみがガラッと変わる。 ・堺市が空き家の仲介をするような形があれば、前に進む。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町家を維持するためにどうすればいいのか、指導していただける場所があれば相談に行きたい。相談室みたいなものがあればいい。 ・計画が動いていくまでの間、今の状態を少しでも遅らせる手段が必要。 ・古い建物に対して意識の高い若い人も多い。そういう人が参加できるイベントもやってはどうか。

<p>第3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時 : 平成25年10月5日(土) 午後7時～9時 ・場 所 : 堺市立町家歴史館 山口家住宅 ・参加者 : 住民22人
<p>市からの 報 告</p>	<p>① 「街なみ環境整備事業」について 都市景観室 ② 講演 平野郷 HOPE ゾーン協議会 会長 松村長二郎氏</p>
<p>意見交換 における 主な意見</p>	<p>■講演要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野は16年前に、今の堺のようにまちなみ再生の話が大阪市から来て、まちづくり協議会を作った。協議会では規約や会計も必要となる。 ・15年間、会長をやって、一生の中でこんな楽しいことはなかった。 ・協議会では、ガイドラインを作る必要がある。平野には380年の名物の饅頭屋さんがある。この外観を江戸時代に戻し、この事例を活用してガイドラインを作った。 ・また、ガイドラインを我々が作る際、住民に集まってもらい、「平野らしくて、美しくて、便利の良いもの」の写真を撮ってきてもらい、その写真を活用してガイドラインを作った。 ・平野で一番楽しかったのは、コンビニアートの取組み。自動販売機で、煙草と同じ箱に物を入れて500円で売る。その中に“平野の歴史を生で聞ける券”を入れたもの。 ・楽しいことをやるのが大事。本人が楽しめば、相手も楽しくなる。 <p>■主な質疑応答 「松」…松村会長、「民」…参加者、「堺」…堺市</p> <p>民) これは辛かったってことは無いですか。 松) まちづくりは苦勞と思われているが、平野では苦勞とは思ったことはない。 堺) 協議会活動15年の中で、特に印象に残っていることは何ですか。 松) 協議会活動の予算を活用して平野のジオラマを作ることができた。また、電線の地中化によって、蜘蛛の巣みたい空が広がった。 民) 皆が、修景をしようという流れになった分岐点は何だったのですか。 松) 平野で一番大きな家を修景した途端、「うちもしてくれ。」となり、それが分岐点になった。 民) 協議会に参加する人の年代はどれくらいですか。 松) 若い人から年寄りまでいろいろ。協議会で防災訓練をしたら、子供やお母さんが来てくれ、そのときのお母さんが2人、手紙くれた。「現在の町は、先祖が作り上げてきてくれたものであり、自分の息子には今よりも良い町を作って手渡さないといけないということが分かりました。これから協議会に参加します。」って書いてあり、励みにもなったし、嬉しかった。</p> <p>■協議会設立に向けた「準備会」に参加を呼びかけ</p>

<p>第4回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時 : 平成26年2月16日(日) ・場 所 : 堺市立町家歴史館山口家住宅 ・参加者 : 住民40人
<p>まち歩き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堺環濠都市北部において、各時代の外観様式をよく現している町家(6カ所)を見てまわった。各町家の前では、スタッフが町家の特徴などについて解説。
<p>講演</p>	<p>『堺旧環濠都市の町家と町並景観』 (大場 修 氏(京都府立大学大学院 教授))</p> <ul style="list-style-type: none"> ■近世町家から近代町家へ <ul style="list-style-type: none"> ・堺には、2階の背の低い「つし二階」の町家が高い比率で残っている。 ■近代町家の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・時代が移るにつれ、建物の表側の2階の高さも高くなり、窓も大きく、開放的になる。関東大震災以降、2階の壁面や軒の銅板貼りが流行する。 ■角地町家の景観(通り景観を引き締めるアクセント) <ul style="list-style-type: none"> ・角地の町家の中には、入母屋造りなど屋根形状に工夫を凝らしている。 ■「高塀造り」の町家形式 <ul style="list-style-type: none"> ・建物と道路の間に庭を設け、道路際に塀を建てる形式を「高塀造り」といい、堺にも見られる。 ■町家の外観：格子／犬矢来／虫小窓の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・堺には、「格子」と「犬矢来」を設け、「虫籠窓」はすっきりとした長方形のものが多く。 ■土蔵の景観 <ul style="list-style-type: none"> ・堺では、通りに面した「蔵」の景色を楽しめる。 ■まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・環濠都市北部を中心に多くの町家が残り、高い残存率を示している。 ・近世前期から近代／昭和初期にかけて、各時代の外観様式を持つ町家が残存しており、それぞれ洗練されて完成度の高い意匠を持っている。 ・そのため、堺の町家の歴史や発展過程を時系列でたどることができる。
<p>市からの報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的なまちなみの再生を地域の皆様とともに進めていくには、地域で町なみ再生協議会を設立し、まちなみのルールを作る必要がある。 ・第3回勉強会后、協議会設立に向け準備会を設置。 ・まちなみのルールに沿った町家の修理や町家風の建築に対し、市として支援。
<p>準備会からの報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の規約や組織体制等の案について説明。 <ul style="list-style-type: none"> - 事業内容(研究会の開催、広報・啓発など)や役員(会長など)、任期等について説明。 - 会員は町なみ再生に賛同いただける方々。 - 顧問は、校区自治連合会長様(錦西・錦)の就任について調整中。 ・参加者に、協議会活動への参加を呼びかけ。
<p>主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段見過ごしている町家をじっくり見学できて良かった。 ・あらためて堺の歴史的まちなみを認識した。 ・堺の町家のデザイン要素を見つけ出すようなイベントを開催してほしい。